

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500613	
法人名	社会福祉法人 白寿会	
事業所名	グループホームよしの	
所在地	徳島県阿波市吉野町柿原二条146番地	
自己評価作成日	平成29年8月2日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会	
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階	
訪問調査日	平成29年11月7日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当ホームは平屋建て3棟で成り立っている。敷地面積、建物共にゆったりとした環境の中、緑に囲まれ、四季折々の草花が咲き、利用者の目を楽ませてくれている。「和」を基調として話しあい信じあい扶けあい温かい生活の場づくりを理念に掲げ、一人ひとりが役割を持ち、互いに支え合える環境作りを心掛けている。日中は施設せず、開放的な環境のもと自由に散歩などをされている姿を職員が見守っている。オレンジカフェ(認知症カフェ)を開設、また同町の幼稚園、小中学校の訪問、市内高校生や専門学生の介護実習の受け入れもしており地域における福祉の拠点となれるよう努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、幹線道路から少し入った住宅街にあり、同一法人の他事業所と同じ敷地内に位置している。職員間で話し合うなどして、“興味・関心チェックシート”“目標達成ポイントカード”を作成し、利用者の意向の把握やその人らしい暮らしを続けることができるよう努めている。また、地域の福祉拠点として、認知症に関する相談に応じつつ、地域の住民やボランティアの協力も得て、オレンジカフェを開催したり、職場体験学習の受け入れや職員を教育機関での介護講座に派遣するなどして、積極的に地域の住民や関係機関等と相互に交流を図っている。災害発生時には、同一法人の他事業所との連携体制が構築されており、利用者や家族の安心につながっている。管理者は、職員と積極的にコミュニケーションを図るようにし、職員の提案やアイデアを聞くようにしている。出された意見等は、職員間で話し合うなどして運営面に反映するなどして、職員の働く意欲の向上となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての役割を理解し、独自の理念を掲げ、職員全員が認識できるように掲示を行い、毎日のミーティングで確認し共有する事でケアに繋げている。	事業所は、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げている。職員間で話し合うなどして、方針に“会いたい”“食べたい”“行きたい”を加え、理念を具体化していけるよう取り組んでいる。職員は、常に理念を意識したケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、オレンジカフェを定期的に開催し立ち寄りやすい環境を作っている。またボランティアの方々の訪問も定期的により交流を図っている。	事業所では、オレンジカフェや地域サロンを開催しており、地域の福祉拠点として相談に応じている。ボランティアや地域住民の参加も得ている。職員は、地域の清掃活動に参加するなどしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行い人材育成に努めたり、中学生の体験学習を受け入れる等している。地域住民の方に運営推進会議に参加して頂き、認知症の理解に努めている。またキャラバンメイトを育成し、認知症サポーター研修を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や日頃の取り組み、問題等を報告している。参加者から出された地域の情報や意見は職員に伝達しホームの運営やサービスの向上に活かしている。防災に関しても地域の方との情報共有の場としており協力関係を築けるよう努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、利用者の状況や行事の様子等について報告しており、助言が得られるようにしている。出された意見は全職員で共有し、運営面に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、地域包括支援センター等常に連携を持ち外出支援の一環として市で行っている教室への連絡など情報交換や相談に乗って頂くなど協力関係を築いている。	管理者は、市担当窓口に出向くなどして、状況報告等を行っている。利用者の状況変化や課題が発生した際に連絡をとっており、改善に向けた助言を得るなどしている。また、協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度は研修を行うようにし、職員の意識統一を図っている。身体拘束を行う事での弊害を理解し、自由に暮らせる開放的な環境作りを行っている。	事業所では、職員が身体拘束の弊害や内容を理解するための研修等の機会を設けている。職員は、身体拘束の弊害等を理解しており、利用者の自由な暮らしを支援している。職員間で、日々のケアのなかでの気づきや振り返りを行ったり、人権研修を通じて再確認したりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、年に1度は研修を行い職員の理解を深め、重要性を認識してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方がいる為、職員も身近に感じている。活用の支援までは行っていないが、必要な時には支援が出来るように理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時には十分な説明を口頭、文章を用いて行い、納得していただいた上で同意をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族とのコミュニケーションを十分取るようにし、要望や意見を気兼ねなく言ってもらえる関係作りに努めている。普段の会話の中で常に要望や意向を引き出すような関わりを心がけている。	事業所では、事業所独自の“興味・関心チェックシート”を活用するなどして、利用者の意向等を把握している。職員は、家族の来訪時には、利用者の生活の様子を伝えるなどして、希望を聞くようにしている。出された意向等は、全職員で検討し運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職務の中で職員の意見に耳を傾けるよう心掛けている。出された意見や提案は話し合いの場を持ち運営に活かしている。	管理者は、“職員伝達ノート”を活用するなどして、職員とコミュニケーションを図っている。また、ミーティングや日々のケアのなかで、職員の提案やアイデアを聞くようにしている。出された意見等は、職員間で話し合うなどして運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の個性を尊重すると共に、努力、功績のあった者にはボーナス等で考慮したり、資格手当もあり職員は向上心を持って働けるよう環境の整備に心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格、勤務年数に応じた研修会に参加し、個人に合わせたスキルアップに努めている。また月1回の勉強会を行うようにし、職員全体のスキルアップも図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年認知症実践者研修、リーダー研修等外部研修会に参加し、他事業所と意見交換できる機会を作っている。また法人内の事業所とも常に情報共有を行い、日頃のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活状態を把握する為、本人、家族と出来るだけ会うようにしている。可能であれば入居前に担当ケアマネージャーと訪問し、今後の生活の不安や希望を聞き取りを受け止めサービスの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況もよく聞き要望を十分理解するよう努めている。家族の想いを日頃のケアに反映できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の希望や状況に柔軟に対応し、必要に応じて他職種にも相談し状況に合ったサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人、される人の関係ではなく、お互いの人権を尊重し、共に協力し合い一緒に過ごしながら学んだり、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から利用者の様子をこまめに伝えるようにしている。現状を知っていただき家族と共に利用者を支えるための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院、理美容院等入居前からの馴染みのある所を利用している。知人の方との関係が途絶えぬようデイサービスへも行き来している。	事業所は、家族の協力を得るなどして、馴染みの理美容院や喫茶店等に出かけられるよう支援している。利用者は、友人や知人に季節の便りを出すなどして、関係の継続に努めている。月1回、事業所では、家族等にホームだよりを送る際には、利用者が自筆でコメントを添えるなどして、様子を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	以前からの知り合い、人間関係を把握し、ユニットや居室を検討している。気の合う者同士で過ごせる時間、場所の提供に努め、お互い声を掛けあい支え合える関係作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気に掛け事業所として必要な情報を提供し、環境の変化にもスムーズに対応できるよう支援している。また利用者間の友人関係を継続できるよう気軽に立ち寄りやすい環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活環境を把握し、希望や思いを汲み取れるよう傾聴に努めている。毎日の表情や会話の内容、行動も気に掛け意向の把握に努めている。	事業所は、日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりの思いを把握するようにしている。職員は、表情や些細なしぐさから気持ちを把握するよう努め、希望に応じた支援に結びつけている。意思の疎通が困難な場合にも、その人らしく暮らすことができるよう本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら本人、家族、関係者から情報を得るようにしている。入居後も利用者、家族との会話の中から生活の様子把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを大切にサポートしている。職員は毎日の記録とミーティングで状態や有する力など利用者の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を決め、本人、家族とより良い関係を保ち意見、要望を伺い、希望する生活ができるよう介護計画作成に努めている。また、状態の変化に合わせて随時見直しを行い、支援を行っている。	担当職員が中心となって、利用者や家族、関係者間で話し合いやカンファレンスを繰り返し行いつつ、担当者会議の際に意見やアイデアを出し合うなどして、介護計画を作成している。本人の心身状態の変化や家族の意向に応じて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはその日の状態や利用者の言動など細かく記録し、全職員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や現状に即したサービスを提供している。状況に合わせて柔軟な支援を行い、個々の満足を高めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの来訪や、地域の店舗への外出、散歩時には近隣の方が声を掛けて下さるなど楽しく生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する医療機関への受診を支援している。症状により家族にも同行していただき診察結果を聞いて頂いている。	事業所では、本人や家族が希望するかかりつけ医が受診できるよう支援している。医療機関の受診時には、家族の協力を得ながら支援している。必要に応じて職員が同行をすることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し週3回の来訪があり健康管理を行ってくれている。職員は相談や助言を受け、状態変化や異常を早期発見できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の支援方法に関する情報を医療機関に伝えている。また定期的に見舞ったり、病院関係者と情報交換を行い、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後も状況に応じた対応が速やかに実施できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応方針、看取り介護について入居時に説明を行い、意向を確認し同意を頂いている。本人、家族の意向に沿い安心して終末期を過ごして頂ける様、かかりつけ医と密な連絡体制を取っている。職員の知識向上にも取り組んでいる。	契約時の段階で、重度化した場合や終末期に関する事業所の方針等を本人や家族等に資料を用いるなどして説明し、意向を確認している。利用者の心身の状態の変化に応じて、本人や家族の意向を再確認している。そのうえで、関係者間で話し合い、情報を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全職員が救命講習を受講している。また緊急時のマニュアルを作成し、連絡体制も整え、緊急時落ち着いて対応できるように勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練は日中、夜間を想定し実施。水害、地震想定も予定している。また、グループホーム単独での避難訓練も実施。地域消防団の協力が得られる体制を整えており、併設施設では食料や物品の備蓄をしている。	年2回、事業所では、地域住民や同一法人の他事業所の職員の協力を得るなどして、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。水害時には、地域住民の協力を得るなどして、土嚢を積むなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけを心がけ、尊厳ある行動がとれるよう努めている。利用者のプライバシーを損なわないよう細心の注意を払い、職員は自己決定を尊重した支援に努めている。	職員は、利用者のプライバシーを損なうことがないよう、日頃のケアや声かけの方法等に注意している。管理者と利用者は、勉強会や研修会等を通じて、誇りやプライバシーの確保について確認しつつ、実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思表示や自己決定が出来るよう声掛けを行い、希望の生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がその人らしく生活できるよう個々の生活ペースを保てるよう支援している。ご家族協力のもと独居で生活されていたご自宅への外出支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日自分で選んで更衣できるよう声掛けをしたり、女性であればお化粧をしていた習慣を継続できるよう支援し生き活きと生活できるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決まったメニューだけでなく複式献立で選んでいただいたメニューにする時もある。育てた野菜を職員と一緒に調理や準備、片付けを行うようにしている。食事形態も利用者の身体状況に合わせ工夫している。	事業所では、メニューが複数ある日もあり、好みの物を選択することができ、食事を楽しむことができるようにしている。職員は、利用者と話し合うなどして、嗜好を確認しており、献立に反映している。利用者と職員は、庭園で野菜を収穫するなどして、料理に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせ飲み物の種類や形態を工夫したり、食事量を変更したり、料理方法を変えたりし対応している。毎日の摂取量はチェックし体調の変化に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い一人一人に合った用具を使用し、口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	A棟		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣や排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。排泄の失敗時には周囲に気付かれない様速やかに対応するなど、羞恥心に配慮している。	事業所では、一人ひとりが無理なくトイレで排泄することができるようにしている。職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、さり気ないトイレ誘導を行っている。全職員は、プライバシーを損なわない支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に応じ十分な水分補給、食事摂取量の確保また適度な運動を心がけ便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重し、入浴が出来るよう支援している。入浴を拒まれたり、体調により希望に沿えない時はその人の体調やタイミングを見計らい入浴して頂いている。	事業所は、利用者一人ひとりの希望に応じた入浴支援に努めている。菖蒲やゆず湯などを取り入れており、季節を感じつつ、ゆったりと入浴することができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間を個々に合わせて支援したり、共有空間にソファを設置、畳スペースもあり自由にくつろぎ、休息を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴、服用薬を把握する為、一覧にしファイルに綴っている。誤薬にも注意し、毎食事に名前、薬確認を行っている。薬変更時には日誌に記録し全職員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事で力を発揮できるよう役割を持ち生活されている。好みのレクリエーションに参加して頂いたり、外食、外出等の支援も行っている。家族からも情報提供や協力を得られるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数での外出や個人での外出、天候、体調に合わせ散歩を行うなど希望に沿った外出支援を行っている。	利用者と職員は、季節の花見や地域のお祭り等に出かけている。また、利用者一人ひとりの希望に応じて、お墓参りなどにも行っている。家族の協力を得るなどして、外泊や外食に出かけることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を希望される方は家族の了承を得、少額が入った財布を持たれ、出張販売や自動販売機で好みの物を購入している。金銭を持つことで安心感を持たれている利用者の方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用する事は可能であり、困難な方には職員がサポートし希望に沿えるようにしている。家族確認のもと以前からの友人との電話や年賀状等手紙のやりとりの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾りつけをしたり、利用者作成の環境作品を展示している。ホール・廊下には天窓があり、明るい日差しが入り込む空間となっている。	共用空間の天窓からは、暖かい陽ざしが降りそそぎ、居心地のよい空間となっている。利用者が、庭園で摘んだ花を、テーブルに飾るなどしており、季節感に配慮した環境づくりにも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、廊下にソファ、戸外にもベンチを設置したり、畳には冬場になると炬燵を用意しくつろげる空間づくりを心がけている。思い思いに過ごす事ができる場の提供に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、テーブル、家具など好みに合わせ配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。家族と相談し、馴染みの品を持ち込んでいただくようにしている。	事業所では、利用者の使い慣れた家具や品物、家族との写真、趣味の作品等を持ち込んでもらっている。職員は、本人が自分らしく居心地よく過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間には利用者が分かり易いよう配慮した表示をしている。安全面では居室にマットを敷いたり安全確保に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての役割を理解し、独自の理念を掲げ、職員全員が認識できるよう掲示を行い、毎日のミーティングで確認し共有する事でケアに繋げている。	地域密着型サービスとしての役割を理解し、独自の理念を掲げ、職員全員が認識できるよう掲示を行い、毎日のミーティングで確認し共有する事でケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、オレンジカフェを定期的開催し立ち寄りやすい環境を作っている。またボランティアの方々の訪問も定期的にあり交流を図っている。	地域のイベントに参加したり、オレンジカフェを定期的開催し立ち寄りやすい環境を作っている。またボランティアの方々の訪問も定期的にあり交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行い人材育成に努めたり、中学生の体験学習を受け入れる等している。地域住民の方に運営推進会議に参加して頂き、認知症の理解に努めている。またキャラバンメイトを育成し、認知症サポーター研修を行っている。	実習生の受け入れを行い人材育成に努めたり、中学生の体験学習を受け入れる等している。地域住民の方に運営推進会議に参加して頂き、認知症の理解に努めている。またキャラバンメイトを育成し、認知症サポーター研修を行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や日頃の取り組み、問題等を報告している。参加者から出された地域の情報や意見は職員に伝達しホームの運営やサービスの向上に活かしている。防災に関しても地域の方との情報共有の場としており協力関係を築けるよう努めている。	利用者の状況や日頃の取り組み、問題等を報告している。参加者から出された地域の情報や意見は職員に伝達しホームの運営やサービスの向上に活かしている。防災に関しても地域の方との情報共有の場としており協力関係を築けるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、地域包括支援センター等常に連携を持ち外出支援の一環として市で行っている教室への連絡など情報交換や相談に乗って頂くなど協力関係を築いている。	介護保険課、地域包括支援センター等常に連携を持ち外出支援の一環として市で行っている教室への連絡など情報交換や相談に乗って頂くなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度は研修を行うようにし、職員の意識統一を図っている。身体拘束を行う事での弊害を理解し、自由に暮らせる開放的な環境作りを行っている。	年に1度は研修を行うようにし、職員の意識統一を図っている。身体拘束を行う事での弊害を理解し、自由に暮らせる開放的な環境作りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、年に1度は研修を行い職員の理解を深め、重要性を認識してもらっている。	身体拘束と同様、年に1度は研修を行い職員の理解を深め、重要性を認識してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方がいる為、職員も身近に感じている。活用の支援までは行っていないが、必要な時には支援が出来るように理解に努めている。	制度を利用されている方がいる為、職員も身近に感じている。活用の支援までは行っていないが、必要な時には支援が出来るように理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時には十分な説明を口頭、文章を用いて行い、納得していただいた上で同意をいただくようにしている。	契約時、解約時、改定時には十分な説明を口頭、文章を用いて行い、納得していただいた上で同意をいただくようにしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族とのコミュニケーションを十分取るようにし、要望や意見を気兼ねなく言ってもらえる関係作りに努めている。普段の会話の中で常に要望や意向を引き出すような関わりを心がけている。	利用者、家族とのコミュニケーションを十分取るようにし、要望や意見を気兼ねなく言ってもらえる関係作りに努めている。普段の会話の中で常に要望や意向を引き出すような関わりを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職務の中で職員の意見に耳を傾けるよう心掛けている。出された意見や提案は話し合いの場を持ち運営に活かしている。	職務の中で職員の意見に耳を傾けるよう心掛けている。出された意見や提案は話し合いの場を持ち運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の個性を尊重すると共に、努力、功績のあった者にはボーナス等で考慮したり、資格手当もあり職員は向上心を持って働けるよう環境の整備に心掛けている。	個々の個性を尊重すると共に、努力、功績のあった者にはボーナス等で考慮したり、資格手当もあり職員は向上心を持って働けるよう環境の整備に心掛けている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格、勤務年数に応じた研修会に参加し、個人に合わせたスキルアップに努めている。また月1回の勉強会を行うようにし、職員全体のスキルアップも図っている。	資格、勤務年数に応じた研修会に参加し、個人に合わせたスキルアップに努めている。また月1回の勉強会を行うようにし、職員全体のスキルアップも図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年認知症実践者研修、リーダー研修等外部研修会に参加し、他事業所と意見交換できる機会を作っている。また法人内の事業所とも常に情報共有を行い、日頃のケアに活かしている。	毎年認知症実践者研修、リーダー研修等外部研修会に参加し、他事業所と意見交換できる機会を作っている。また法人内の事業所とも常に情報共有を行い、日頃のケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活状態を把握する為、本人、家族と出来るだけ会うようにしている。可能であれば入居前に担当ケアマネージャーと訪問し、今後の生活の不安や希望を聞き取りを受け止めサービスの提供に努めている。	事前に生活状態を把握する為、本人、家族と出来るだけ会うようにしている。可能であれば入居前に担当ケアマネージャーと訪問し、今後の生活の不安や希望を聞き取りを受け止めサービスの提供に努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況もよく聞き要望を十分理解するよう努めている。家族の想いを日頃のケアに反映できるようにしている。	家族の状況もよく聞き要望を十分理解するよう努めている。家族の想いを日頃のケアに反映できるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の希望や状況に柔軟に対応し、必要に応じて他職種にも相談し状況に合ったサービスを提供できるよう努めている。	利用者、家族の希望や状況に柔軟に対応し、必要に応じて他職種にも相談し状況に合ったサービスを提供できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人、される人の関係ではなく、お互いの人権を尊重し、共に協力し合い一緒に過ごしながら学んだり、支え合う関係を築いている。	介護する人、される人の関係ではなく、お互いの人権を尊重し、共に協力し合い一緒に過ごしながら学んだり、支え合う関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から利用者の様子をこまめに伝えるようにしている。現状を知っていただき家族と共に利用者を支えるための協力関係を築いている。	日頃から利用者の様子をこまめに伝えるようにしている。現状を知っていただき家族と共に利用者を支えるための協力関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院、理美容院等入居前からの馴染みのある所を利用している。知人の方との関係が途絶えぬようデイサービスへも行き来している。	病院、理美容院等入居前からの馴染みのある所を利用している。知人の方との関係が途絶えぬようデイサービスへも行き来している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	以前からの知り合い、人間関係を把握し、ユニットや居室を検討している。気の合う者同士で過ごせる時間、場所の提供に努め、お互い声を掛けあい支え合える関係作りを支援している。	以前からの知り合い、人間関係を把握し、ユニットや居室を検討している。気の合う者同士で過ごせる時間、場所の提供に努め、お互い声を掛けあい支え合える関係作りを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気に掛け事業所として必要な情報を提供し、環境の変化にもスムーズに対応できるよう支援している。また利用者間の友人関係を継続できるよう気軽に立ち寄りやすい環境作りに努めている。	退居後も気に掛け事業所として必要な情報を提供し、環境の変化にもスムーズに対応できるよう支援している。また利用者間の友人関係を継続できるよう気軽に立ち寄りやすい環境作りに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活環境を把握し、希望や思いを汲み取れるよう傾聴に努めている。毎日の表情や会話の内容、行動も気に掛け意向の把握に努めている。	入居前の生活環境を把握し、希望や思いを汲み取れるよう傾聴に努めている。毎日の表情や会話の内容、行動も気に掛け意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら本人、家族、関係者から情報を得るようにしている。入居後も利用者、家族との会話の中から生活の様子の把握に努めている。	プライバシーに配慮しながら本人、家族、関係者から情報を得るようにしている。入居後も利用者、家族との会話の中から生活の様子の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを大切にサポートしている。職員は毎日の記録とミーティングで状態や有する力など利用者の全体像の把握に努めている。	個々の生活リズムを大切にサポートしている。職員は毎日の記録とミーティングで状態や有する力など利用者の全体像の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を決め、本人、家族とより良い関係を保ち意見、要望を伺い、希望する生活ができるよう介護計画作成に努めている。また、状態の変化に合わせて随時見直しを行い、支援を行っている。	担当職員を決め、本人、家族とより良い関係を保ち意見、要望を伺い、希望する生活ができるよう介護計画作成に努めている。また、状態の変化に合わせて随時見直しを行い、支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはその日の状態や利用者の言動など細かく記録し、全職員で共有している。	個別記録にはその日の状態や利用者の言動など細かく記録し、全職員で共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や現状に即したサービスを提供している。状況に合わせ柔軟な支援を行い、個々の満足度を高めるように努めている。	本人、家族の希望や現状に即したサービスを提供している。状況に合わせ柔軟な支援を行い、個々の満足度を高めるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの来訪や、地域の店舗への外出、散歩時には近隣の方が声を掛けて下さるなど楽しく生活が送れるよう支援している。	地域ボランティアの来訪や、地域の店舗への外出、散歩時には近隣の方が声を掛けて下さるなど楽しく生活が送れるよう支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する医療機関への受診を支援している。症状により家族にも同行していただき診察結果を聞いて頂いている。	利用者、家族の希望する医療機関への受診を支援している。症状により家族にも同行していただき診察結果を聞いて頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し週3回の来訪があり健康管理を行って頂いている。職員は相談や助言を受け、状態変化や異常を早期発見できるように努めている。	訪問看護ステーションと契約し週3回の来訪があり健康管理を行って頂いている。職員は相談や助言を受け、状態変化や異常を早期発見できるように努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院し、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の支援方法に関する情報を医療機関に伝えている。また定期的に見舞ったり、病院関係者と情報交換を行い、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後も状況に応じた対応が速やかに実施できるよう努めている。	入院時には利用者の支援方法に関する情報を医療機関に伝えている。また定期的に見舞ったり、病院関係者と情報交換を行い、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後も状況に応じた対応が速やかに実施できるよう努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応方針、看取り介護について入居時に説明を行い、意向を確認し同意を頂いている。本人、家族の意向に沿って安心して終末期を過ごして頂ける様、かかりつけ医と密な連絡体制を取っている。職員の知識向上にも取り組んでいる。	終末期に対する対応方針、看取り介護について入居時に説明を行い、意向を確認し同意を頂いている。本人、家族の意向に沿って安心して終末期を過ごして頂ける様、かかりつけ医と密な連絡体制を取っている。職員の知識向上にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全職員が救命講習を受講している。また緊急時のマニュアルを作成し、連絡体制も整え、緊急時落ち着いて対応できるように勉強している。	定期的に全職員が救命講習を受講している。また緊急時のマニュアルを作成し、連絡体制も整え、緊急時落ち着いて対応できるように勉強している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練は日中、夜間を想定し実施。水害、地震想定も予定している。また、グループホーム単独での避難訓練も実施。地域消防団の協力が得られる体制を整えており、併設施設では食料や物品の備蓄をしている。	年2回の消防避難訓練は日中、夜間を想定し実施。水害、地震想定も予定している。また、グループホーム単独での避難訓練も実施。地域消防団の協力が得られる体制を整えており、併設施設では食料や物品の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけを心がけ、尊厳ある行動がとれるよう努めている。利用者のプライバシーを損なわないよう細心の注意を払い、職員は自己決定を尊重した支援に努めている。	丁寧な言葉かけを心がけ、尊厳ある行動がとれるよう努めている。利用者のプライバシーを損なわないよう細心の注意を払い、職員は自己決定を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思表示や自己決定が出来るよう声掛けを行い、希望の生活が送れるよう支援している。	利用者が意思表示や自己決定が出来るよう声掛けを行い、希望の生活が送れるよう支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がその人らしく生活できるよう個々の生活ペースを保てるよう支援している。ご家族協力のもと独居で生活されていたご自宅への外出支援も行っている。	利用者一人一人がその人らしく生活できるよう個々の生活ペースを保てるよう支援している。ご家族協力のもと独居で生活されていたご自宅への外出支援も行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日自分で選んで更衣できるよう声掛けをしたり、女性であればお化粧をしていた習慣を継続できるよう支援し生き活きと生活できるよう努めている。	毎日自分で選んで更衣できるよう声掛けをしたり、女性であればお化粧をしていた習慣を継続できるよう支援し生き活きと生活できるよう努めている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決まったメニューだけでなく複式献立で選んでいただいたメニューにする時もある。育てた野菜を職員と一緒に調理や準備、片付けを行うようにしている。食事形態も利用者の身体状況に合わせて工夫している。	決まったメニューだけでなく複式献立で選んでいただいたメニューにする時もある。育てた野菜を職員と一緒に調理や準備、片付けを行うようにしている。食事形態も利用者の身体状況に合わせて工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて飲み物の種類や形態を工夫したり、食事量を変更したり、料理方法を変えたりし対応している。毎日の摂取量はチェックし体調の変化に気を付けている。	利用者の状態に合わせて飲み物の種類や形態を工夫したり、食事量を変更したり、料理方法を変えたりし対応している。毎日の摂取量はチェックし体調の変化に気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い一人一人に合った用具を使用し、口腔ケアの支援を行っている。	毎食後の声掛けを行い一人一人に合った用具を使用し、口腔ケアの支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣や排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。排泄の失敗時には周囲に気付かれない様速やかに対応するなど、羞恥心に配慮している。	個々の排泄習慣や排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。排泄の失敗時には周囲に気付かれない様速やかに対応するなど、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に応じ十分な水分補給、食事摂取量の確保また適度な運動を心がけ便秘予防に努めている。	利用者に応じ十分な水分補給、食事摂取量の確保また適度な運動を心がけ便秘予防に努めている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重し、入浴が出来るよう支援している。入浴を拒まれたり、体調により希望に沿えない時はその人の体調やタイミングを見計らい入浴して頂いている。	利用者の希望を尊重し、入浴が出来るよう支援している。入浴を拒まれたり、体調により希望に沿えない時はその人の体調やタイミングを見計らい入浴して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間を個々に合わせて支援したり、共有空間にソファを設置、畳スペースもあり自由にくつろぎ、休息を取っている。	起床、就寝時間を個々に合わせて支援したり、共有空間にソファを設置、畳スペースもあり自由にくつろぎ、休息を取っている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴、服用薬を把握する為、一覧にしファイルに綴っている。誤薬にも注意し、毎食事に名前、薬確認を行っている。薬変更時には日誌に記録し全職員が確認している。	既往歴、服用薬を把握する為、一覧にしファイルに綴っている。誤薬にも注意し、毎食事に名前、薬確認を行っている。薬変更時には日誌に記録し全職員が確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事で力を発揮できるよう役割を持ち生活されている。好みのレクリエーションに参加して頂いたり、外食、外出等の支援も行っている。家族からも情報提供や協力を得られるよう努めている。	得意な事で力を発揮できるよう役割を持ち生活されている。好みのレクリエーションに参加して頂いたり、外食、外出等の支援も行っている。家族からも情報提供や協力を得られるよう努めている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数での外出や個人での外出、天候、体調に合わせ散歩を行うなど希望に沿った外出支援を行っている。	少人数での外出や個人での外出、天候、体調に合わせ散歩を行うなど希望に沿った外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を希望される方は家族の了承を得、少額が入った財布を持たれ、出張販売や自動販売機で好みの物を購入している。金銭を持つことで安心感を持たれている利用者の方もいる。	金銭の所持を希望される方は家族の了承を得、少額が入った財布を持たれ、出張販売や自動販売機で好みの物を購入している。金銭を持つことで安心感を持たれている利用者の方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用する事は可能であり、困難な方には職員がサポートし希望に沿えるようにしている。家族確認のもと以前からの友人との電話や年賀状等手紙のやりとりの支援を行っている。	電話を使用する事は可能であり、困難な方には職員がサポートし希望に沿えるようにしている。家族確認のもと以前からの友人との電話や年賀状等手紙のやりとりの支援を行っている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾りつけをしたり、利用者作成の環境作品を展示している。ホール・廊下には天窓があり、明るい日差しが入り込む空間となっている。	季節を感じられるような飾りつけをしたり、利用者作成の環境作品を展示している。ホール・廊下には天窓があり、明るい日差しが入り込む空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、廊下にソファ、戸外にもベンチを設置したり、畳には冬場になると炬燵を用意しくつろげる空間づくりを心がけている。思い思いに過ごす事ができる場の提供に努めている。	ホール、廊下にソファ、戸外にもベンチを設置したり、畳には冬場になると炬燵を用意しくつろげる空間づくりを心がけている。思い思いに過ごす事ができる場の提供に努めている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、テーブル、家具など好みに合わせ配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。家族と相談し、馴染みの品を持ち込んでいただくようにしている。	テレビ、テーブル、家具など好みに合わせ配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。家族と相談し、馴染みの品を持ち込んでいただくようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間には利用者が分かり易いよう配慮した表示をしている。安全面では居室にマットを敷いたりし安全確保に努めている。	共有空間には利用者が分かり易いよう配慮した表示をしている。安全面では居室にマットを敷いたりし安全確保に努めている。	